

特集 No.4

# まちづくりコンサルタント としての地域との関わり ～真の働き方改革～

石田 富男

「風の人」という言葉がある。「土の人」(＝地元の人)に対して、よそものを指しており、この両者がうまくかみ合うことでまちづくりが進むという。まちづくりコンサルタントを「風の人」と捉える場合もあるようだが、風の人には、次から次へと場所を変えていくようなイメージもあり、違和感がある。ここでは、まちづくりコンサルタントとしての地域との関わりについて考えてみたい。

## スぺーシアでの実践を通じて

まちづくりを知的地場産業と捉え、地域に根差して取り組むことを目指すスぺーシアとしては「風の人」として一時的な関わりで終わるのではなく、できる限り継続してそのまちに関わっていききたいと考えている。



築地地区(2004年)  
小学生による防潮壁修景の現場

しかし、スぺーシア創立三十年を振り返ってみるとそれは容易でなかった。再開発事業は、その特質から十年以上も継続して関わることができていくが、その他については、市町村からの委託として地域に関わることから、その委託事業が終われば基本的にはつながりがなくなってしまう。

事業が継続されているうちは、できるかぎり継続してその仕事を受託できるような努め、かつては行政もそれが望ましいと判断し、随意契約などの形で受注するケースもあった。しかし、近年では年度単位で入札が行われ、金額面で受注できないこともある。経費削減や公平性の担保という点から入札が行われているが、まちづくり業務に単純な入札制度を導入するのはどうなのか、この点はスぺーシア設立当初から主張していることなのだが、大きくは変わっていない。

このような中で、スぺーシアではこれまで関わりがあり、かつ思い入れもある市町村の業務については、経験のない業務についても積極的にプロポ

ーザルに参加し、継続的な関わりを目指している。仕事をやる上でこれまでのストックが活かせるという点も大きいですが、そのまちの魅力や愛着が関わってみたいと思わせるからだ。会社組織として継続させるためには、資金確保のための仕事も必要だが、所員各自がやりたいことをできるかぎり実現できることを目指している。

## スぺーシアの研修制度

そのために設けているのが研修制度である。勤務時間中でも関心のある講演会などには自己の判断で参加でき、交通費なども支出が可能だ。この制度を使って業務としてつながりが終わった地域においても継続して関わることができる。

例えば私は、名古屋市築地地区でのワークショップによる公園づくりの業務をきっかけとして、地域のまちづくり団体「夢塾 21」に関わり、防潮壁の修景などにも参加した。勤務時間中に小学生による防潮壁修景の現場の手伝いをしたり、残業してホームページを作成したり。組織の再編などから関わりは薄れてしまったが、今も築地は愛着を感じる、気になるまちだ。

## 真の働き方改革の先取り

近年、働き方改革が大きなテーマとなっている。残業が当たり前だった我々コンサルタントにとっては大き

な課題であるが、働き方改革の本来の狙いである「働く人々が、個々の事情に応じた多様な柔軟な働き方を自分で『選択』できるようにするための改革」という点では、スぺーシアは働き方改革を先取りしてきたといえるのではないかと考えている。

私の場合、自分の関心で業務以外のことも業務と並行して行っており、そのために残業を余儀なくされることも多い。残業規制は、勤務時間内は収益をあげる仕事に専念し、それ以外は勤務時間外ということなのだろうが、そんな働き方はしたくない。余暇も含め、自分の興味あることに時間を使い、その合間に生活の糧を得るための業務をこなす。そんな働き方をしたいと思う。現行のスぺーシアの制度はそんな働き方に合っているのだ。

自分が関心を持つ地域に継続して関わることで、我々も地域に化学反応を生み出す関係人口となりうるのではないかと思う。スぺーシアではそんな働き方を担保するとともに、同じ思いを持つ人材の参画を期待している。



安土城跡

関わりを深めたいと思っている地域